

## 相談事例

### ～ Aさん(30代男性)の場合 ～

#### 【相談概要】

地元の高校卒業後、県外に就職するが、慣れない環境にストレスを感じ、すぐに退職。その後、職を転々とするが、いずれも長続きせず、数年間未就労状態。帰省後も、就職活動を行っているが、不採用が続いている。

広報折込みの生活困窮者自立支援事業周知チラシを見て、父親とともに来所。3人暮らし(本人、父、母)であるが、両親ともに年金暮らしで経済的に余裕もないため、早く再就職して自立したいとの希望。

#### 【支援概要】

未就労期間が長く、社会や就労に対する不安が強かったことや年長者とのコミュニケーションが苦手だったため、就職活動に向けた支援として、「就労準備支援事業」を利用。市内の施設で週5回軽作業を行うことで、社会生活上必要なコミュニケーション能力の向上及び仕事に対するイメージ作りを図った。支援期間中は、定期的に面談を行い、本人の悩みや不安などを聞き、適宜アドバイスを行った。

その後、市内の商業施設に就職したため、支援終了となった。